



「流行」

島根県教育センター
教育企画部長

伊藤 尚子



今年度の教育センターだより第139号の冒頭にありました大場所長の「不易」を受け、タイトルを「流行」としてみました。「不易流行」とは、元々は松尾芭蕉が示した俳諧の理念ですが、以前聞いた文部科学省の話の中にも、教育においても、どんなに社会が変化しようとも「時代を超えて変わらない価値のあるもの」（不易）があり、働くことに対する考え方・価値観が多様化する中で「時代の変化とともに変えていく必要があるもの」（流行）があるとありました。教職における不易とは、大場所長も書かれていたように、どんなに時代や社会が変化しても、子どもたちの成長を実感できる喜び、ともに学ぶことで共有できる感動、教育が実を結んだときの達成感等、教職員としての魅力やそのやりがいなどと考えます。また流行は、時代の流れに合わせて現代の教育に柔軟に対応することであり、これは、子どもたちがこれからの社会を生きていくという視点はもちろん、これからの時代を拓いていく人材の育成という視点で非常に重要なことであります。私たち教職員にとってもこのことは同じであり、教育に課せられた課題であると考えます。

現在の教職員研修は教員の本丸とも言える教科指導や学習活動に関するもの、キャリアステージに応じた新任者研修・6年目研修・中堅教諭等資質向上研修・管理職研修などが基盤とされ、教育センターでもこれら以外に多くのテーマ研修や能力開発研修等を行っています。これからの時代は、基盤となる研修を元に、なりたい自分をイメージし、身に付け高めたい資質能力を見極め、そのための研修を自ら取りに行く時代になっていきます。専門性を高めたり得意分野を伸ばしたりするために研修等で主体的にスキルを高めることが求められます。働き方改革とあわせ、子どもたちに向き合う時間、自分に向き合う時間を作り出し、自分のために使う時間を大事にしていきたいと考えています。

そういった意味も含め、現在教育センターでは次年度の研修に向けて、時代の流行に対応すべく、新たに大きく2つのことを計画しております。1つ目は、6年目研修の大幅な変更です。自らの資質能力を高めるために、主体的に研修を選択、受講するスタイルへ変更いたします。この受講経験が今後の長い教員人生において、「学び続ける教職員の育成」の足がかりとなることを願っています。2つ目は情報等の一元化の構築を計画しています。もっと学びたい教職員の方々が、欲しい情報や興味のある研修を取り出しやすいように研修情報システムの中での情報一元化を目指しています。この研修情報システムは昨年度より運用が開始され、研修の申込み等はもちろんですが、「研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励」が進めやすいという点で多くの校長先生方から評価をいただいているところです。管理職から見て身に付けさせたい資質能力の研修などを、年度当初面接や普段の対話の中で受講奨励いただき、受講環境を整えていただくと、現場の教職員の方々がより主体的に研修に向き合えると考えています。そして、皆様方の研修の選択にあわせ、一層の研修情報システムの活用が各学校で推し進められることを願っているところです。

島根県教育センターは引き続き、教育をめぐる諸課題や教育の本質を研究し、皆様方が探究心を持ちつつ、自主的、自律的に学ぶことを支援してまいります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。